

視聴覚教育

NO. 416

発行日

27.10.30

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる!?

『HDMI (エイチディーイーエルムアイ)』の端子を接続するタイプのディスプレイやタブレット端末やパソコンの画面を、エディタやソフトウェアで編集する。端末やプロジェクタ、スクリーンなど、多くの場合、映像を映し出すことが多い。このように、HDMIケーブルを接続することで、音声も連続して送れる。便利である。

子供の思考を活性化させるICTの活用

学習情報指導員 村田 貴志

「稲作は、人々の生活をこんなに変えたんだ」
中学校社会科の授業で聞いた生徒のつぶやきである。その授業では、一人に一台のタブレット端末が配付され、デジタル教科書の挿絵で縄文時代と弥生時代の生活を比較した。生徒は、集落を囲む堀や建物などの挿絵をピンチアウトし、細かな描写を拡大して比較した。挿絵を手がかりに、これらの時代への思いを巡らせていった。

弥生時代に争いが増えた原因について発表する場面では、大型ディスプレイに拡大表示された挿絵を指さし、根拠を明確にした発言をする生徒の姿が見られた。「倉庫が作られ、食糧が保管されている」「人々が富を蓄えられるようになった」「権力を持つ人間が現れた」など、次々に意見が発表された。これに対して、別の資料を根拠にした賛成や質問の意見も発表された。その都度、授業支援ソフトを活用して資料を提示すると、発表者の根拠を知ることができた。生徒は、稲作の開始によって弥生時代の人々の生活が大きく変化したことを学び取っていた。ICTの活用により実現が容易となる学習活

動の例として「思考の可視化」「瞬時の共有化」「試行の繰り返し」などが挙げられる。

この授業では、発言の根拠を明確にすることで、生徒の思考の過程や結果を可視化したり、発言の根拠を瞬時に共有化したりすることができた。このことが生徒同士の関わり合いを生み、学び合うことができたと言える。この実践は、生徒が活発に思考する授業を創造する上で、ICTが効果的に活用できることを明確に示している。

五月に提示された教育再生実行会議第七次提言では、自立した学び手として子供たちを育てるために「ICTが、学習の手段及び学習環境として一層重要な要素になる」と明言している。ICTを活用して、授業改革を目指していくことは、次期指導要領でも大きな課題となるだろう。しかし、現状としてICTを活用しても機器の操作に振り回され、授業の目的が達成できない実践を見受けられることもある。先述の授業で、タブレット端末の活用が生徒の思考を活性化させたように、大切なのはICTを使うことではなく、使った学びが学んだかである。ICTを手段の一つとして積極的に活用し、子供たちの主体的・協働的な学びを深めるようにしていきたい。

Ⅱ 視聴覚教育あれこれⅡ 平成27年度岡崎市教育研究大会

九月二日(火)、新香山中学校で岡崎市教育研究大会学習情報分科会が開催された。助言者に名古屋大学大学院教授の大谷尚先生をお迎えし、『子供に「生きる力」を育み、子供の「安全を守る」ICTの効果的な活用』をテーマに、熱心な発表や討議が行われた。発表された十八点のレポートの内容を分類すると次のようになる。

① 教科指導における効果的なICT利用を追究した実践 (五点)

② 教科指導における効果的なタブレット端末利用を追究した実践 (八点)

③ 情報モラル教育の深化・充実を目指した実践 (五点)

助言者の大谷先生からは、ICTを利用して新しい授業を創造するときの留意点や、子供たちのSNS利用に対しての御示唆をいただいた。また、提案されたレポート一つ一つに丁寧な御指導をいただき、大変学ぶところの多い会となった。

なお、「父母と教師の教育を語る会(県教研)」には次の二名が推薦され、実践の発表を行った。

・北野小学校 内田 敏明先生

「ICTを活用することで、子どもの学習意欲を高め、関わり合いを促す授業」
「六年「わたしたちの願いを実現する政治」の実践を通して」

・葵中学校 岩川 皓司先生

「多角的な視点から、自分の考えを深める国語の授業」
「ICTの活用による「学び合い・磨き合い」の活性化」



II 実践報告 II

食糧問題から環境問題へ

矢作西小学校 山本 浩司

五年生の社会科には、食糧生産量や自給率の変化を扱う単元「わたしたちの生活と食糧生産」がある。ここで子供の生活経験を生かせば、環境問題に迫る好機になると考え、学習を進めた。

教科書では、これからの課題として「食糧自給率が下がっている」とあるが、子供たちには、それがどんな状況なのか実感が無い。そこで、興味を引きそうな意外性のある環境問題として砂漠化を扱い、「砂漠化と日本は関係があるのだろうか」と問いかけた。子供の反応は、「関係ある」「関係ない」が同数くらいであった。子供に「アメリカの大規模な農業により砂漠化が進んでいる」「しよ油などの調味料やスナック菓子の原料はほとんどアメリカ産である」ことを、写真やグラフを使い、大型ディスプレイで紹介した。そして、再び「砂漠化と日本は関係があるのだろうか」と問いかけると、「アメリカで砂漠が広がるとお菓子が高くなったり、食べられなくなったりすると思う」「日本のせいで砂漠化が進んでいるかもしれない」など、砂漠化と日本の関わりについて意見が挙がった。

子供の生活と環境問題の距離が近くなった瞬間であった。



その後、発展学習としてパソコン室で環境問題の調べ学習を行った。その際には、「スカイメニュー」の「先生の見ているページを送信」の機能を使った。パソコン操作が苦手な子も、興味をもった問題を素早く検索し、調べに取り掛かることができた。調べたことは、ノートにまとめた。環境問題を自分事と捉えられるような学習を、今後も実践していきたい。

II レッツ・トライ II

情報モラルに対する意識を高める授業

現在生徒たちは、SNSを利用すればいつでもどこでも全世界に向けて、情報を発信できる状況で生活している。そこでSNS利用上の注意点を学ばせ、情報社会を主体的に、正しく生きる力を育成する授業を行うことを考えた。

導入ではSNSを利用する際に、実際に起こりがちな事例を取り上げ、この問題が身近に起こり得ることを生徒たちに意識させた。そして、なぜこういった問題が起きてしまったのかを四人グループで話し合った。何気ない書き込みや写真添付が、大きな問題につながってしまうことに気付いている生徒がたくさんいた。また、どんなことに気を付けて利用したらよいかを考えているグループもあった。SNSの特徴を知るとともに、自分の生活を振り返る良い機会となった。

さらに、生徒一人一人の情報モラルに対する意識を高めるために、タブレット端末で「ネットモラル検定」に取り組ませた。グループで取り組んだことで、「これじゃない」「よく起きそうな問題だね」と話し合いながら意欲的に考える姿が見られた。この活動によって、情報モラルに関する意識と理解が深められた。



タブレット端末を活用して、グループで顔を合わせて一つのことを考えると、問題への関心が高まり、話し合いが活性化するように感じた。情報モラル育成に向けた、タブレット端末活用の研究を、更に進めていきたい。

(常磐中学校 学習情報主任 加藤崇夫)

ライブフリーだよ

●岡崎市視聴覚ライブラリー

第13回ふるさと岡崎メディアコンクール

「ふるさと岡崎メディアコンクール」の作品募集が始まります。子供たちの作品や先生方が制作した教材など、ぜひこの機会に御応募ください。全員に参加賞を用意しています。応募要項や応募票は岡崎市視聴覚ライブラリーのHP (<http://www.oavl.jp>) にあります。

【募集期間】

平成27年11月9日(月)～12月4日(金)

(郵送による応募も可。当日消印有効。)

【テーマ】

自由(生涯教育、学校教育に適した素材・内容で、応募者の自作であること)

●視聴覚ライブラリーの教材紹介

使える教材

小学理科 4年 (DVD全7巻)

- ① 天気と気温
- ② 星や月Ⅰ
- ③ 星や月Ⅱ
- ④ 星や月Ⅲ
- ⑤ わたしたちの体と運動
- ⑥ 自然の中の水
- ⑦ 季節と生き物



～一年間をふりかえって貸出し・返却には巡回郵便が使えます。予約はHP (<http://www.oavl.jp>) か電話で。

※お問い合わせ先

岡崎市視聴覚ライブラリー
電話 二三-六七八九